

# 長久手市教育大綱（案）

## 第1 教育理念

人間力を育み、いつまでも、健やかで、夢と生きがいを持ち、成長できる人づくり  
～自然共生・地域共存・多様性尊重を根本に～

## 第2 教育方針

### 1 3つの理念の重視

良い学校に入り、良い会社に入り、たくさんお金を稼ぎ、良い生活をする。成績優秀な人を集め、効率・完璧を追求し、業績を伸ばし、勝ち組になる。こうした生き方を皆が追い求める時代が続いてきましたが、その結果、現代社会は、様々なひずみを抱えることとなっています。今、私たちは、これまでの価値観を見直す時期にきています。

このため、人が人間らしくあるために不可欠な理念と考えられる次の3つを、教育のあり方を考える上での根本に据えて、取り組んでいきます。

#### ①自然との共生

人は生物として、自然の一環の中にあり、自然から様々な恵みを享受して生存するとともに、自然から様々な叡智を得て、社会の営みを築いてきました。

しかし、今、自然との触れ合いが減少し、自然に反した生活局面も多くなってきており、欧米では心身に支障をきたす“自然欠乏症候群”を危惧する動きもあります。人にとって自然の大切さ、命の尊さを再認識し、教育の中でも、自然との共生を重視することが必要です。

#### ②地域との共存

人は他者の支えなしには生きられない社会的な存在です。血縁、地縁、知縁の3つの絆がある中で、都市化や情報化の進展に伴い、居心地の良い”知縁”が重視される一方で、関係づくりが煩わしい”地縁”の希薄化・弱体化が進んできています。家庭も核家族化、少子化が進み、機能が低下しています。

しかし、人の暮らしは生活基盤となる地域を離れては成り立たず、直接的な支えが必要なときには、遠く離れた知縁・血縁では支えになりません。行政サービスでカバーできる範囲にも限界があり、地域の絆が不可欠です。学校も同様です。安心安全で楽しく充実した時を過ごせる住みよい地域は、そこに暮らす住民どうしで形成していく必要があります。また、地域には、それぞれの特性や資源、先人が培ってきた知恵や歴史・文化の蓄積もあります。人が学び、育つ環境もこうした地域での暮らしの中にあり、教育、とりわけ子どもの教育

にとって、地域との共存は、家庭や学校では担えない重要な機能を果たします。

### ③多様性の尊重

一人ひとりが大切にされる社会は、自分と違う他者を認め、尊重しあうことで成り立ちます。また、多様な人が交わり、多様な力が組み合わさることで、補完・支え合いの関係や新たな発見、価値の創造が可能になったりします。

教育の中でも、多様な個性・能力・経験を持つ多様な世代の方々がともに交流する環境を大切にすることが必要です。

## 2 “人間力”たる5つの力の涵養

社会の一員として役割を担うことのできる主体的で自立した人間形成に必要な次の5つの力を育むことを進めます。

- ①気づき、感じ取る力
- ②考え、うみ出す力
- ③敬い、思いやる力
- ④表現し、伝える力
- ⑤チャレンジし、行動する力

## 3 健やかさの形成・増進・保持

健康は、人が自分らしく生きていく上での土台となるものであり、様々な活動を行い、能力を発揮するために必要不可欠なものです。成長・発達過程に健全な心身を形成することはもとより大切ですが、のみならず、生涯を通じての心身の健康づくりを進めます。

## 4 役割・居場所のある生きがいの推進

人が幸せに暮らすためには、「人に愛されること」「人に褒められること」「人の役にたつこと」「人に必要とされること」が必要です。誰もが排除されることなく存在を認められ、夢や生きがいを持って自己実現を図ることができるような教育を進めます。

## 5 生涯を通じて、成長できる環境の醸成

人は、環境さえ整えば、いくつになっても、学び、成長することができます。たとえうまくいかなかった場合でも、いつでも、何度でもやり直すチャンスが保障されれば、きっといつかは成就する、そのような可能性に満ちあふれた教育環境の醸成を進めます。